



大島造船所の紹介

松田明德 (建設部門)

今回、晴れて技術士(建設部門)となった(株)大島造船所の松田と申します。まだ、入社して11年の若造で、技術士試験を受けるにあたっては知識も現場経験も乏しい私が、技術士を名乗れるのか葛藤がありました。これから自己研鑽しその名に相応しい技術者となるよう頑張りたいと思いますので宜しくお願いいたします。

私の所属は鉄構部で主に橋梁関係の設計をしていますので専門外ですが、当社大島工場の紹介をいたします。

大島造船所は1973年2月に、ダイゾー(旧大阪造船所)・住友商事・住友重機械工業の出資により設立された会社で、私より1つ上とまだまだ若く、新ドックを建造した造船会社としては最後(最新)の会社と聞いています。

当社は、船の種類をバルクキャリアーという、穀物、石炭、鉱石等を梱包せずにはら積みで運搬する貨物船の建造に特化させ、創業以来300隻以上建造してきました。現在、年間30隻以上の連続建造を実現しており、「バルクの大島」と呼ばれています。

バルクキャリアーにもいろいろありますが、中でも当社はDWT5~8万トンクラスのハンディマックスやパナマックスと呼ばれるものが主力製品です。

DWTとは、DEADWEIGHT TONの略で載荷重量トンと呼ばれ、その名の通り荷物を載せられる重量のことで船の大きさを示す数値です。また、ハンディマックスとはDWT5万トンクラスの中型貨物船、パナマックスとはパナマ運河(運河幅32M)を通行できるDWT6~8万トンクラスの貨物船のことです。

さらに、できるだけサイズはそのまま(港や運河の制限があるため)でDWTや燃費を向上させた自社ブランド製品(OS-MAX60、JAPANAMAX等)を建造・開発しています。

半月に1回以上は命名式と呼ばれる船主に船を引き渡しするセレモニーがあり、船主関係者は主に外国人が多いので餅つきなどが行われ、私もたまに招集されて餅つきに参加しています。

敷地面積は76万m<sup>2</sup>とディズニーランドの1.6倍(ホームページ資料なので長崎向けに例えるとビッグNの30個分)と広大な敷地ですが、多数隻建造していますので船のブロックが所狭しと保管されています。

製作としては、写真では右下の水切り場から右上に

(写真は新聞見出し)。



② 松本 直弥氏 (応用理学部門)

平成20年1月に長崎県で実施している「研究者等訪問授業」の講師として、「天文関係について」佐世保市宮中学校で講義。(写真は松本直弥氏提供)



③ 柏原 公二郎氏 (応用理学部門)

(社)日本技術士会九州支部より平成20年5月の支部総会の際、「技術士としての活動」に対して表彰されました。お祝い申し上げます。

④ 久原 俊之氏 (水産部門)

「昆布で健康フグ」と題してテレビ出演。今年11月には日本技術士会水産部会の研究発表会が長崎で開催され、長崎県技術士会としても支援を予定しています。次回は当機関紙で紹介・案内を予定しています。



流れ、切断、ブロック製作、塗装、ドックへと流れる順序となります。各工程を以下に簡単に説明します。

- ①水切り：船から運ばれてきた鋼材を荷揚げします
- ②ショット：鋼板のさびを落とし、建造期間中の鋼材の防錆を行います
- ③切断・加工：レーザーやプラズマにより鋼板を切断し、曲げや開先を付けます
- ④小組立：板に形鋼などリブを骨組し60トン程度まで組み立てます
- ⑤大組立：300トン程度まで溶接で組み立てます
- ⑥塗装：ブロック溶接部以外の塗装を施します
- ⑦ドック搭載：ドックに搭載しブロック溶接します
- ⑧進水：ドックの締切を解放し、船を浮かべて岸壁に持っていきます
- ⑨試験：沖に出て各種性能試験を実施します
- ⑩引渡：岸壁に設置し、命名式を行い引渡しとなります

去年、写真中央海側のヤードの埋め立てを行い、今年5月には国内最大規模の1200トンゴライアスクレーン（写真左側一番手前のクレーン）が設置されました。これらにより、ドック搭載前段階での組立工場におけるブロックの大型化や作業効率化を図り、さらなる多数隻連続建造を行う予定です。

現在、大島工場は社員・協力社員合わせて約2000名です。造船事業の他にも橋梁などの各種鋼構造物、リゾートホテル・焼酎工場・トマト農園など地域振興事業を展開し、『地域と共に』発展する企業をモットーに、『特色ある世界的造船所』を目指し、たゆまぬ挑戦を続けています。（以上）



#### 長崎県技術士会会員の活動状況等 （平成19年度）

① 久保田 英士氏（機械部門）  
平成20年3月に長崎大学より工学博士号を取得。「81歳で工学博士号取得」として新聞・テレビで報道。



#### 平成20年度通常総会・研修会・交流会報告

去る6月20日（金）に諫早のホテルセンリュウにおいて、30有余名の出席により、平成20年度通常総会・研修会・総会が行われました。

##### ① 会長挨拶

19年度は久保田英士氏の博士号取得や柏原公二郎氏の九州支部長表彰など、喜ばしいニュースがありました。本年度は11月に技術士業績・研究発表会が鹿児島であり、長崎県からも2名方の発表がありますので、テクニカルツアーとして多数参加をお願いします。また本部水産部会もあり、忙しい年になりますので、会員のご協力をお願いします。

##### ② 総会

平成19年度事業報告・収支決算、20年度事業計画・予算案審議のほか、九州支部総会等の報告、鎌田泰彦長崎大学名誉教授の蔵書保管、NPO技術交流フォーラム（佐賀県）の技術研修会参加および長崎県科学技術振興局が実施している「研究者等訪問授業」事業等が議案として審議・報告されました。

##### ③ 研修会

「都市ごみ焼却炉の排ガス急冷法によるダイオキシン類に関する研究」により、81歳で工学博士学位を取得された久保田英士先生にその動機・取得までのご苦労および今後の抱負等についてお話していただきました。今後のますますのご活躍を祈念いたします。

##### ④ 交流会

今回新しく入会された3名を含めて30名出席されました。本音の交流が出来て盛大なものでした。

#### 機関紙発行担当より

9月11、12日に「ながさき建設技術フェア2008」が長崎市で開催されます。長崎県技術士会も後援団体の一員となっておりますので、参加をお願いします。

また、長崎県技術士会のホームページにおいて、上記フェアの他、各種講習会・講演会等の案内も適宜行っていますので、会員の方は是非ご利用ください。

大栄開発(株) 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町2690番地

TEL ; 0956-31-9358 FAX ; 0956-32-2711

E-mail : [s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp](mailto:s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp)

※住所・所属・連絡先等を変更された方はご一報を！